

森 夏子
MORI NATSUKO

α STATION
FM KYOTO 89.4

SPECIAL INTERVIEW



気負わず、正直に 自分の芯を探したい。

いまの森夏子の原点は京都から

実は母親がステージママで、幼い頃からクラシックバレエ・ピアノ・オルガンなどお稽古漬け。母は私を宝塚か音大へ入れたかったみたいで。それがしんどくて、大学で京都へ。大学の思い出と言えば、何を聞いてもラクロス！

まだまだ新しいスポーツだったラクロスを広めて、部を作るために走り回ったんです。学生連盟の役員になって、とにかくたくさんの人と会った。どんなスポーツなのか説明して、何度も頭下げて、大会のための資金を調達して。知らない街で、同じ関西とはいえ馴染みのない言葉に戸惑いながら、目の前にあるものをクリアしなきゃ！って必死だった。人の後ろについてい

大好きな真珠は人間そのもの

とはいえ、「DJになりたい」ってぼんやり思っていたくらいで、大学4年生のときには就活の流れに乗るのが当たり前だと思ってましたね。食品メーカーに就職したものの、本当は父親の影響から真珠関係の仕事がしたくて、でも、同じ業界には来るなどお違

くタイプだった私の意識が大きく変わったのはこの頃。大学の枠を越えて様々な人と話をし、大人たちに採まれて、随分と成長できたと思う。だからDJの仕事が軌道に乗った頃に、いまの私を育ててくれた京都に戻りたくて、α STATIONでお仕事させていただくように。京都は第二の故郷ですね。

Mori Natsuko

7月29日神戸市生まれ。同志社女子大学卒業後、食品メーカーに就職。その後、真珠会社へ転職し、海外へ買い付けに行くように。ちょっと運映きの27歳でDJデビュー。日本ラクロス協会公認2級審判の資格を持つパリの体育会系。

しがあつたから諦めた。その後、メーカーの仕事を辞めてしばらくぶらぶらしてたら、見かねた両親が真珠会社を斡旋(笑)。英語部門担当で、海外のジュエリーショーにも行ったり、香港まで買い付けに行ったり。真珠って、本人間とよく似てるんです。大ききも輝きも色も同じものはふたつとなくて、並べ方や組み合わせ次第で魅力が何倍にもなる。それが面白い。選別するところからネックレスに仕上げるまで、いろんな工程を勉強したのもこの頃。深く知れば知るほど、真珠が大好きになりました。そんな真珠を使って、内面を表現できるアクセサリーがつくれたらいいなあと、考えたり。

幸せをプロデュースする仕事を

キレイな日本語がしゃべれるようにと始めたレッスンで、「25歳越えてタレントなんて絶対無理なんだよ」って言われた。そんなつもりはなかったから、「そうですか」ってくらいだったけど、「でもキャラクター面白そうだからオーディション受けてみれば」って(笑)。そしたら、運よく受かって、街角インタビューやラジオのレポーターを経て、DJデビュー。振り返ってみると、とにかくがむしゃらだった。あの頃に比べたらスピードダウンはしたかもしれないけど、本を読んだり、ライブに行ったり、人の話を聞く中で、自分に必要なモノだけを吸収できるようになったかな？ 無駄に何でも取り込むんじゃない。きっちり知識として根づくモノを選べるようになった。それをラジオに乗せて、リスナーに届けられたらいいなというつも意識してます。

最近、「記憶に残っても記録じゃない声の仕事に加えて、想いをカタチに残したいって思うようになってきて。それで行き着いたのが真珠。自分らしいものを、記念になるものサポートしてくれるものをプロデュースしたい。女の子が幸せになれるアクセサリーが理想かな。DJも真珠のプロデュースも、幸せを届けられるステキな仕事ですね。



DJ's Favorite Item

森さん自身が買い付けてきたリングやプロデュースした真珠のアクセサリー。「ちゃんと手入れをしてあげると、いつまでも色褪せないですよ」。黄色いのはゴールドパール。真珠のアクセサリーは、ひとつ一つ真珠を選別してつくったもの。真珠はテンションを上げてくれる欠かせない必須アイテムであり、自分をサポートしてくれるツール。



SUNNYSIDE BALCONY

毎週月～金 11:00～15:00

DJ: 慶元まさ美(月・火)、森夏子(水・木・金)

心地よい音楽とともにグルメ、カルチャー、京都の街情報などバラエティー豊かな話題を織り交ぜてお届けする昼の人気プログラム。ゲストコーナーでは、アーティストのみならず、様々な世界で活躍する「旬の人たち」を招いて音空間に彩を添えてくれる。